

No.13 A WORD FROM ANOTHER WORLD



Dear Hokkaido,

Autumn sunshine is streaming through the panes of glass near my desk. The last of the fireflies are circling the skies in giddy triumph ...you're on my mind today. I'm thinking back to the day we met. Riding in a town car, your bright image flashed by in 50 cm frames at a time. Green vibrancy greeted my eyes as they poured over your image. In that back seat, I was a ball of nerves, a nucleus of energy. Excitement and nervousness bubbled within me. You matched my energy. I knew we'd make a good pair.

Hokkaido, we've spent one incredible year together. I've climbed your mountains, swam in your lakes, explored your rivers, run along your rice fields, danced on your shores, and climbed your trees. You never cease to enchant me. I had heard dark tales of your harsh frozen months, but you graced us with dazzling snow and breathtaking sunsets. As you shed your heavy winter coat and began slipping into your sleek spring wardrobe, it was like meeting an old friend again. I love all your shades.

What does our future hold, Hokkaido? You have surreptitiously slipped into a corner of my heart, a place from which you will never be evicted. Will I set down roots and claim you for my own? Live out the rest of my life on your soft soil? Or will I wander the Earth in search of a place like you? Only time will tell. Always know, my dear Hokkaido, that our bond is one stronger than the faculties of place and time.

Yours truly,
Karin

【ちょっと豆知識】

宮地晶子
「autumn」=秋、という言葉が出てきました。「fall」も秋ですが、文学的な文章では「autumn」が好まれるようです。語源的には「fall」は「落ちる」で落葉のイメージ、「autumn」は「増大一収穫一実りの秋」の意味合いがあります。

親愛なる北海道へ カリン・ストロム

秋の日射しが机のそばの窓から流れ込んで、最後のトンボが浮かれた喜びに空を舞っています。今日はあなたのことを考えています。初めて会ったあの日。町の車に乗せられた私の目に、50センチ四方の景色がきらきらと飛び込んできました。目に入る生き生きとした緑。あとき、後部座席で、私は緊張とエネルギーの固まりでした。興奮と緊張が体の中で沸き立ちました。私の元気にぴったりの北海道。きつとうまくいく、という予感がしました。

北海道様、あなたとともに過ごした一年は素晴らしかった。あなたの山に登り、湖で泳ぐ。川を探索し、水田に沿って走る。海辺で踊り、木に登る。あなたの魅力は私を捉えて離しません。聞いてきたのは厳しく凍てつく暗い冬の話。でも実際に私を迎えてくれたのは、まばゆい雪と息を飲む夕日でした。そして重いコートを脱ぎ捨てて、生き生きとした春の衣装を身にまとったあなたは、まるで懐かしい友と再会したよう。あなたの持つすべての色が好きです。

北海道様、私たちのこれからはどうなっていくでしょう。私の心に入り込んだあなたが、この先心から出ていくことはありません。ここに根を下ろし、あなたは私のものだと言ってもいいですか。この柔らかい大地で一生を過ごしても？ それともあなたのような場所を求めて地球をさまよいますか。その答えは時だけが知っている。でも、愛しい北海道様、確かなことが一つあります。それは私たちの絆が時や場所の力を越えるほど強い、ということです。

(訳:宮地晶子)

英語教育指導員 宮地晶子の

エイゴのマナビカタ

第92回

英語発表

東中祭(東川中学校の学校祭)の出し物に英語発表があります。夏休み前から「どんな出しものにしよう」「誰が選ばれるだろう」「小道具はどうしよう」と、考えることがいっぱいです。

今年の2年生は狂言「毒のつぼ」。3年生は落語「動物園」。これは、死んだトラの身代わりをするアルバイトの話。最初の難関は出演者選び。夏休み明け後すぐに学級予選、学年予選を行います。意欲的な子や英語を好きな子には出演させたい。でも他の係との兼ね合いもあり、選ぶのはなかなか大変です。そして

決まったらすぐ発表練習。本番までは、一週間ほどしかありません。発音練習と発表指導が同時進行です。

私がこだわるのは発音。自然に通じる英語です。この時一緒に指導してくれるのが英語指導助手のカリンとステシーの2人。大助かりです。たかが英語発表、されど英語発表。これをきっかけに英語をもっと頑張ろう、と思う生徒が出てきます。発音が劇的に良くなる生徒もいます。何が将来を決めるか分かりません。

それにしても、困るのは小道具。今年はトラのかぶりものがない。夏前から会う人ごとに「トラ持ってませんか」...?? 普通は持ってませんよね。でも東川小学校の小山田教頭先生から「あるよ」と心強い一言。実は昨年金髪のかつらをお借りしました。いえいえ、教頭先生がコスプレをお好きなわけではありません。芸歴が長い(?)、いえいえ教育熱心な先生ほど、小道具をたくさんお持ちなのです。これホントの話。他に「トラのパンツ」を持っている先生も発見。生徒はなんとかトラになりました。後日お礼を申し上げると「ロバもあるよ」。「むむ、来年は『王様の耳はロバの耳』でいくか?」と思った瞬間でした。